

望ましい組織とは

コミュニケーションの重要性を考える

心身ともに働きがいのある望ましい組織とは、どのような組織でしょうか。Barnard（1938）は組織を定義する 3 要素として、①共通目的の存在、②貢献意欲の存在、③コミュニケーションの存在を提示しています。これは組織として協働する際に、共通の目的（①）に向かって積極的に協働する（②）ためには、メンバー同士の良いコミュニケーション（③）が不可欠である、ということを意味しています。では、“良いコミュニケーション”とはどのようなものでしょうか。

“良いコミュニケーション”を考える上で重要なことは、コミュニケーションは「出し手」と「受け手」の相対的な関係性にあるということです。自分自身が伝えるべきことを言葉に出すことで、「しっかりとコミュニケーションが取れている」と思いがちですが、受け手にとっては必ずしもそうとは限りません。出し手次第では、受け手が快く思えないような言葉や表現として理解されてしまうこともあります。そういう意味では、特に受け手の立場に立ったコミュニケーションが重要です。言葉の選択はもちろんのこと、準言語コミュニケーション（声量・イントネーションなど）、非言語コミュニケーション（表情・視線・しぐさ・距離感など）を受け手に伝えたい内容と一致させることによって“良いコミュニケーション”を促進させることができます。一方で、言語・準言語・非言語コミュニケーションが一致していない場合、受け手を混乱させたり不安にさせること（二重拘束という）があり、それ以降のコミュニケーションに支障をきたす可能性が高まります。

大学という組織では、学生・職員・教員など、多様な立場にある者同士が協働していく必要があります。一呼吸おいて相手の立場に立ったコミュニケーションを心がけてみると、今よりも心身ともに働きがいのある望ましい組織に変わっていくのかもしれない。

参考文献

- Barnard. C. I.. 1938. The Functions of the Executive. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- 公益財団法人日本体育協会. 2012. 公認クラブマネジャー養成テキスト. 公益財団法人日本体育協会.
- 公益財団法人日本レクリエーション協会. 2020. 楽しさをとおした心の元気づくり. 公益財団法人日本レクリエーション協会.

文責 井澤 悠樹（スポーツ健康科学部）